

ペルセウス座流星群

流星雨

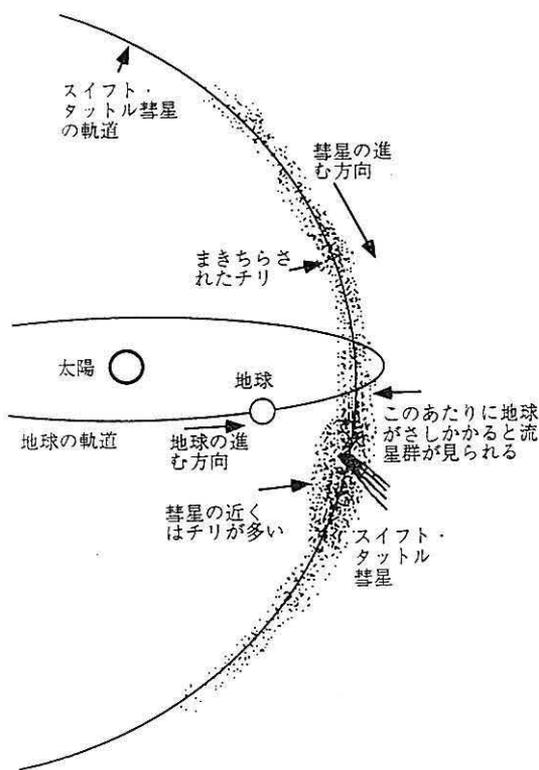
星たちの間をぬって、一瞬のうちに輝き、そして消えていく流れ星は、とても神秘的なものです。流れ星を、ひとつやふたつ見つけただけでも興奮するのに、もし、この流れ星が、雨のように数えきれないくらい流れたら、いったいどんなにすばらしい光景になるのでしょうか。想像しただけで気分がワクワクします。

そんな光景が近々見られるかもしれません。今年の8月12日の夜、1時間あたり何百もの流れ星が北東の空にかかるペルセウス座から飛び出すように流れるようすが見られると思います。

ペルセウス座流星群

さて、これはペルセウス座流星群と呼ばれているものです。この流星群は毎年7月の下旬から8月20日頃まで見られます。しかし、例年だったら最もたくさん流れ星が見られる8月12日の夜から13日の朝にかけてでも、せいぜい空の暗い所で1時間に50個ぐらいのものです。

しかし、一昨年（2002年）のペルセウス座流星群は、場所によっては予想をはるかに上回る1時間に300個以上も見られた所がありました。また昨年（2001年）も、日本ではあいにく観測する条件や天候が悪く、あまり見られませんでした。中国などでは一昨年と同じように多くの流星が飛んだということです。そして、今年はさらに多くの流れ星が見られると考えられます。



流星群が見える理由

どうしてたくさん見られるのか

それは、昨年秋、ペルセウス座流星群の生みの親であると言われているスィフト・タートル彗星が130年ぶりに日本人の木内鶴彦さんによって再発見され、地球の近くにいたことがわかったからです。

彗星は地球と同じように太陽の周りをまわる天体ですが、まわりながら、その軌道の近くにたくさんのチリをまきちらします。スィフト・タートル彗星の場合その軌道と地球の軌道が大変接近しており、この彗星がまきちらしたたくさんのチリの集まりの中を地球が通ります。そのとき地球に飛び込んで来たチリが空気との摩擦で光り、流れ星として見られるのです。

今年の場合、スィフト・タートル彗星が昨年12月に地球の軌道の近くを通ったばかりなので、もっとたくさんのチリがあると考えられ、多くの流れ星が見られると思います。

どのように見えるか

ペルセウス座は8月13日の午前0時ぐらいには、北東の空に見えますが、流れ星は空の広い範囲にわたって、一晩中見られますので、空の開けた、出来るだけ空の暗い場所で見てください。

科学文化センターでも、天文教室を予定しています。

「古洞の森で流星群を見る会」

日時 8/12 PM. 8:00から8/13 AM. 4:00まで

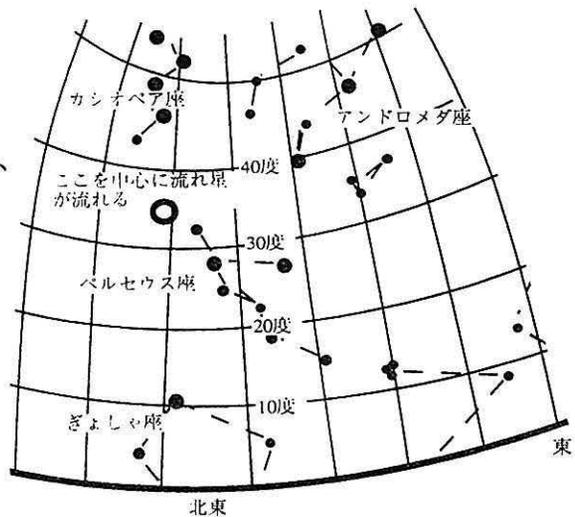
場所 とやま古洞の森自然活用村

その他 自然活用村のケビンで仮眠もできます。

*仮眠希望の方は8月5日までに往復ハガキで申込みください。

料金 大人1000円、小人(中学生以下)500円

詳細は富山市科学文化センターまで



ペルセウス座流星群 の見える様子

8月13日午前0時頃

の北東の空

布村 克志



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1丁目8番31号

電話 (0764) 91-2123 (代表)

H5.7.5